

新規採用職員 座談会

(R2年 Vol.4)

安定系統 の 仕事紹介

今回は、令和2年4月1日に兵庫労働局に入省した新規採用職員の中でも、主にハローワークで勤務する安定系統の職員から、現在の仕事内容などを中心にご紹介したいと思います。

Q1 現在の仕事内容を教えてください。

稲田：雇用保険の業務に携わっています。主な仕事は、仕事を失われた方が、雇用保険を受給できる資格があるか、金額や日数はいくらもらえるかなどを審査する業務を行っています。他に、退職前の方の、雇用保険に関する相談なども行っています。

古宅：私も同じ雇用保険給付課で、失業された方の、雇用保険の受給資格があるかなどを確認していく仕事をしています。あと、離職票に記載の離職理由が、手続きされた方がおっしゃる理由と異なる場合、また金額が異なる場合などの、補正と言われる、確認、修正作業を行っています。

横井：私も、雇用保険の資格決定や雇用保険の支給業務である認定業務などを行っています。また、雇用保険を受給中の方で、早期に就職された場合、条件によっては、再就職手当を受給できますが、その支給業務も行っています。

猪澤：私も、雇用保険給付課の仕事をしておりませんが、主に、失業状態を確認し、支給を行う認定業務を行っています。

あと、私個人の仕事として、職業訓練校に通われている方の、交通費である通所手当の経路の確認とその支給業務、職業訓練校から届く受講証明書を基に、受講中の方の雇用保険の支給業務も行っています。

小林：私は庶務課で働いていますので、あまり来所者の方と話す機会はありませんが、職員の給与に関する

業務や、福利厚生、郵便物の発送業務を行っています。また、新型コロナウイルス感染症の飛沫感染を防ぐために、窓口にビニールシートを設置するなども行いました。

梅田：私も、庶務課で働いていますが、私は職員の出張費である旅費に関わる仕事をしています。また、小林君と同じように、郵便の発送業務を行っています。

古矢：私は、各ハローワークや労働基準監督署からの物品の購入依頼や修理の依頼を受けて、事業者と契約をしています。その際、物品が納品されたか、修理がなされたかなど、最終確認するところまでが仕事となっています。

Q2 仕事で大変だったこと、また良かったことを教えてください。

小林：私は職員とやり取りをする機会が多いのですが、ほとんどの職員が窓口業務に従事しているの、内線電話など中々繋がらないことが

参加職員

兵庫労働局 会計1係 古矢
ハローワーク神戸 給付課 稲田
ハローワーク尼崎 庶務課 梅田
ハローワーク西宮 庶務課 小林
ハローワーク加古川 給付課 猪澤
ハローワーク伊丹 給付課 古宅
ハローワーク西神 雇用保険課 横井
スペシャルゲスト
久保村 兵庫労働局職業安定部長

多いため、職員への依頼事項や配布物があるときは、直接職員の席に行き、話をするようにしています。そのおかげで、入省して間もないですが、名前と顔を覚えてもらえ、気さくに話かけてもらえるようになりました。

大変なことは、庶務課では様々な内容の電話が掛かってきますので、複雑な内容のときは、非常に緊張してしまいます。

古宅：最初はみんな、来所者へ対応するときは緊張すると思いますが、話が始めると普通に話を進めることができますし、何かあれば先輩や上司に助けを求めることができる職場なので、割と安心して対応することができるようになりました。



ソーシャルディスタンスを維持しています

稲田：私も来所者の方と接していて、分からないことがあったときは、窓口の後ろに下がって調べたり、上司に聞いたりしています。できる限り、来所者の方に不安を与えないよう心がけています。

猪澤：再就職手当の支給業務の中で、雇用保険の加入日を確認するときに、加入日が誤っていたときは、事業主に訂正をしていただく必要があります。その事業主への訂正依頼は、本来は雇用保険適用課の仕事ですが、先輩に教えてもらいながら、事業主や社会保険労務士に手続きの流れを説明し、ご理解してもらえたときは、自分でも少し成長できたなあと感じました。

横井：業務で大変だなと思うことは、離職理由が事業主と受給者とで相違があった場合、事実関係によっては、必ずしも受給者が申し出された離職理由にならない場合があるので、そのときに、受給者にどう説明すればいいのか、すごく悩みます。

稲田：私も同じで、最初は上司に全てお願いしていましたが、上司の説明を横で聞き、徐々に1人で説明をすることができるようになりました。

梅田：私は庶務課の仕事で、届いた郵便物を仕分けるときに、どこの部署あてなのか最初は全く分かりませんでした。先輩や上司に聞き、自分でリストを作り、最近やっと覚えることができました。

古矢：会計の仕事では、今年度、新たに3つの施設が開設されたのですが、その際に、物品の購入など、依頼をしなければならなかったのですが、とても忙しかったです。しかし、実際に開設後にその施設に行き、営業されている様子を見て、大変だったけど頑張った良かったと感動しました。

**ここでスペシャルゲスト！
久保村職業安定部長に来ていただきました。**

(久保村 兵庫労働局職業安定部長より)

Q3 兵庫労働局で働くことを選んだ決め手は何ですか。

古矢：最初はどこの官庁に就職しようか決めていなかったのですが、官

庁訪問や職場見学での職員の印象で決めました。

梅田：私は、大学では労働法ゼミに入っていて、労働は生きていくなかでも、核になることだなと考えたことがきっかけでした。

小林：私も直前まで決めていなかったのですが、ハローワーク神戸の見学を電話でお願いしたら、すぐに対応してくださり、説明も分かりやすかったので、それで決めました。

横井：私は学生の時に、障害者の職業訓練施設を見学する機会があり、その体験から働く人の役に立ちたいと思いました。最終的には、説明会や面接時に対応してくださった職員が、気さくで優しくかったので、自分に合っていると決めました。



古宅：私も労働法ゼミに入っていたので、労働関係に関わる仕事がしたいと思っていて、兵庫労働局の職場の雰囲気、ここだと楽しく、安心して働けると決めていました。

稲田：私は何かの分野に特化した仕事がしたいと思っていて、学生時代にアルバイトをしていたので、労働という分野が身近にあり、大学3年生のときにハローワークのインターンシップに参加させていただき、職員が来所者に対し、親身に対応しているところを見て、やりがいのある仕事であると感じ、官庁訪問に行きました。

猪澤：私は最初から労働局志望で、他の労働局の官庁訪問も参加しましたが、兵庫労働局からの連絡が一番早かったので、兵庫労働局で全力で働こうと決めました。NPOなどを研究した際に、フィールドワークで当該世帯の状況を確認していく中で、定職に就いて働くということとはごく当たり前のことですが、非常に重要なことだと痛感したため、仕事を探している人などを支援したいと考えて決めました。

久保村部長：皆さん貴重な意見をありがとうございます。私も、みなさんと同じように、厚生労働省に入省するまでは、他の省庁や、民間企業など、いろいろなところに足を運びました。その中で、私と会ってくれた職員の方が、「人として」いいなあと感じて、厚生労働省を選びました。私は、平成9年に入省しましたが、今でもその選択は間違っていないと思っています。

受験生のみなさんにも、いろいろな省庁に足を運んでもらい、ぜひ労働局に来ていただきたいと思います。

Q4 最後に、受験生へのメッセージをお願いします。

古矢：今年は新型コロナウイルス感染症の影響により、試験の時期が変更されて大変だと思いますが、周りを気にせず、自分のペースで頑張ってください。

梅田：労働局は国民の皆様との目線が近いので、国民の皆様をサポートしたい方はぜひ労働局を受けてみてください。

小林：先ほど言ったとおり、労働局は急遽見学をお願いしたにもかかわらず、対応してくださって、それが就職に繋がったので、チャンスを逃さないように、積極的に動いてもらえたらと思います。

横井：就職活動は不安なことも多いのですが、将来に関わることなので、じっくり考えて決めてほしいと思います。

古宅：合う合わないかは入ってみないと分からない部分もあるので、魅力を感じたことや、興味があることは、それだけを信じて突き進んでほしいなと思います。

稲田：大変な中、ここまで粘り強く頑張ってきた方は、合格すると思いますし、この厳しい状況を乗り越えてきた方は、必ず将来でも活躍できると思いますので、自信をもって臨んでもらいたいです。

猪澤：試験までの日程が長くなっていて、モチベーションが下がったりするかもしれませんが、職場見学など興味のある官庁には話しを聞きに行ったりして、高いモチベーションを維持して頑張ってもらいたいです。

